

大きな借金を背負い、
まで流された農家の主は、
ラメが並んでいる」と訴える

取材・文 横田一(ジャーナリスト)

212日 米源とされた 怒りの告白

水牛がいなくなった都農町の農場で本誌に告白する竹島英俊さん。木の樹皮かはがれていますのは、水牛が角ではぎ取った痕だという



「私の水牛農場が最初に口蹄疫に感染した（初発）と報道されてから、地獄のような日々が始まりました。29万頭殺処分の『犯人扱い』をされたのです。そのフレッシュヤーはすさまじく、アボなしで記者がやってきて『あなたの農場のせい』で感染が広がった。どう責任を取るのか」と怒鳴り散らされたこともありました。私だけでなく、働きに来ていたパートさんまでが『（南隣の）川南町に感染拡大したのはあなたたちせい』と同じ農家の人が言われ、辛い思いをしました。

感染ルートについては（今年1月に口蹄疫が発生した）韓国から研修生が視察に来ていた」と根も葉もない噂を流れ、「農場主は自殺した」というデマも飛び出したほどでした。ショックでした。莫大な借金も抱えることになりましたし、気が弱かつたら本当に自殺していたかもしません。でも、不本意な形で殺され、農場主は自殺した」というデマも飛び出したほどでした。ショックでした。

莫大な借金も抱えることになりましたし、気が弱かつたら本当に自殺していたかもしません。でも、不本意な形で殺され、農場主は自殺した」というデマも飛び出したほどでした。ショックでした。

PHOTO 陣内雅義

28

つて、今は再起を目指しています」

が起つた。

こう話すのは、宮崎県都農町で水牛農場を経営していた竹島英俊さん（37）である。海外から5000万円かけて輸入した水牛42頭を飼い、その乳からモッツァレラチーズを作っていたが、水牛はすべて殺処分されて農場は閉鎖。現在は、チーズの納入先だったイタリアンレストラン「トト」（福岡市）で皿洗いのアルバイト生活を余儀なくされている。時給は800円。それでも「莫大な借金を返済し、これから10年で必ず水牛を飼ってチーズ生産を再開します」と力強く夢を語る。

宮崎県で今年4月20日に1例目が確認された家畜伝染病・口蹄疫は、東国原英夫知事の指導力不足や防疫情勢の初動遅れなどから感染が一気に拡大。8月27日の知事による終息宣言までに殺処分された牛や豚などの家畜は県全体で実に29万頭にも及んだ。

竹島さんが水牛の異変に気が付いたのは3月26日だった。2頭が発熱し、餌を残していたので獣医に診せたが、31日になっても水牛の食欲が戻らない。不審に思った竹島さんは家畜保健衛生所（家保）に通報、診察を依頼して、検体採取にも協力した。製品が出荷停止になる可能性もあったが、「レストランに病気の牛から作ったチーズを納入して迷惑をかけてはいけない」と思い、ためらうことなく家保に通報したのだ。だが、この決断が口蹄疫感染拡大の主犯であるかのよう

汚名を着せられる呼び水となつた。
検体採取から20日後の4月20日、都農町で口蹄疫の第1例目が確認された。続いて南隣の川南町で25例目が発生し、その後の7例目以降は川南町で連続して発生。ここで爆発的な感染拡大が起つた。

竹島さんが水牛の異変に気が付いたのは3月26日だった。2頭が発熱し、餌を残していたので獣医に診せたが、31日になっても水牛の食欲が戻らない。不審に思った竹島さんは家畜保健衛生所（家保）に通報、診察を依頼して、検体採取にも協力した。製品が出荷停止になる可能性もあったが、「レストランに病気の牛から作ったチーズを納入して迷惑をかけてはいけない」と思い、ためらうことなく家保に通報したのだ。だが、この決断が口蹄疫感染拡大の主犯であるかのよう

汚名を着せられる呼び水となつた。
検体採取から20日後の4月20日、都農町で口蹄疫の第1例目が確認された。続いて南隣の川南町で25例目が発生し、その後の7例目以降は川南町で連続して発生。ここで爆発的な感染拡大が起つた。

6例目とされた竹島農場だが、前述した3月31日に家保が採取した検体から、後に口蹄疫ウイルスが検出された。感染時期が第1例目よりも早い結果となつたため、竹島農場が最も早く感染した「初発」と見なされてしまったのだ。

「実名だけでなく写真までOKして取材に応じるのは今回が初めてです。取材を断つたのは二次被害を抑えるためでした。というのも、発生当初、私の農場で採取した検体が国の検査機関に回され

ていなかつたんです。そのため、県の対応に落ち度がある」と追及する記事が相次きました。そんな時期に私が話をすれば、県の担当者が追い込まれて自殺してしまう恐れがあると思ったのです。実際、「02年には北海道で、BSE（牛海绵状脑症）の生体検査で見落としをした女性獣医師が自殺していますし、'04年の鳥インフルエンザの時も兵庫県の生産農家が夫婦で自殺しました。口蹄疫で第二の犠牲者が出ることは絶対に避けたいと思ひ、取材には極力応じないことにしているのです」

感染ルートを調べる農林水産省の疫学調査チームや、チームに資料を提供する県の畜産課は、現在も感染源を竹島農場と断定している。しかし、多くの被害農家や、第三機関である「県口蹄疫対策検証委員会」（座長・原田隆典宮崎大工学部教授）はまったく別の見方をしている。川南町にある7例の大規模農場が初発である可能性と言及しているのだ。本誌7月22日号でも報じたが、4月26日にこの大規模農場に獣医師チームが検査に入ったところ、口蹄疫はほぼ全頭に拡がり、なかにはすでに治っている牛までい